



学校評価アンケートの結果報告ならびに改善策について

校長 西宮良雄

今後とも、「喜びと学びがいのある さわやかな学校」の具現化を目指してまいります。
皆様のご理解とご協力のほど、よろしくお願いたします。

※今年度は、保護者・教職員・児童の質問形式を同じにし、比較しやすくしました。

※ 4：十分達成されている 3：ほぼ達成されている 2：あまり達成されていない 1：ほとんど達成されていない
0：分からない

平成24年度 練馬区立向山小学校 教育活動評価	保護者	教職員	児童
1 子供は、学校で明るく、楽しく学校に通っている。	3. 6	3. 5	3. 3
自己評価についての評価結果および主な意見			
全体的に 85. 8%と高い数値を示しており全学年において 90%を超しております。更に充実発展を目指します。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
約 5%弱の不十分な点については友達や家族関係、学習等の悩みや課題があることが考えられます。教育相談機能の充実に努めていきます。			
2 子供は、学校や地域で進んであいさつをしている。	3. 1	1. 7	3. 3
自己評価についての評価結果および主な意見			
家庭では、18. 1%が不十分ととらえています。学校では、教職員からあいさつをすれば返ってくるが児童からのあいさつは不十分であると受け止めています。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
毎月あいさつや言葉遣いに関する目標を設定し、全校朝会、学級指導等を活用して指導にあたります。児童会活動でも積極的に取り組んでいきたいと考えています。			
3 子供は、学習に集中し、落ち着いて授業に取り組んでいる。	3. 2	3. 1	3. 2
自己評価についての評価結果および主な意見			
82. 3%の達成率です。学級、学年の共通した指導が成果を上げていると思います。更なる充実を目指します。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
全校共通の指導内容である「学習のきまり」「生活のきまり」が定着しつつあります。児童の実態に応じて、全校で指導にあたります。			
4 子供は、学校生活のきまりを守り、生活している。	3. 4	2. 7	3. 2
自己評価についての評価結果および主な意見			
保護者は、学校生活のきまりを守り、生活していると意識しています。教職員は普段の学校生活全般から判断しています。普段の生活の中で、一層きまりを守っていくように指導していきます。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
「学習と生活のきまり」については、全校共通の内容として継続して指導にあたります。児童の実態を基に重点化を図り、問題解決に努めます。			

平成 24 年度 練馬区立向山小学校 教育活動評価	保護者	教職員	児童
5 子供は、友達と仲よく生活している。	3. 6	3. 4	3. 6
自己評価についての評価結果および主な意見			
全体的に 94.4% が仲よく生活していると回答しています。さらに充実、発展を目指し、学校生活を楽しい場にしていくよう努めます。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
3.8% の不十分な点については、友達関係や学習等での悩みや課題があることが考えられます。教育相談機能の充実に努めてまいります。			
6 子供は、表現力やコミュニケーションの力が身に付いてきている。	3. 2	3. 1	3. 1
自己評価についての評価結果および主な意見			
全体に 84.7% が、表現力やコミュニケーションの力が身に付いてきていると回答しています。校内研究での成果が表れてきていると思います。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
日常の授業で、表現やコミュニケーション活動を意図的・計画的に取り入れていきます。表現やコミュニケーション活動の経験を重ねることで定着を図っていきます。			
7 学校は、子供に分かりやすく、楽しい授業を工夫している。	3. 3	3. 2	3. 3
自己評価についての評価結果および主な意見			
全体的に 83.4% の割合を占めています。校内研究の成果と課題を生かし、児童自ら考え、主体的に活動する授業への転換を図っていくことが必要です。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
校内研究会の充実と参加体制の整備など、研修を効果的に進めます。長期休業日を利用して研修会に積極的に参加し、教員としての資質や能力を伸ばします。			
8 学校は、縦割り班活動（縦割り遊び、全校遠足、ドリームハッピーなど）を通して、異年齢集団の活動が充実している。	3. 5	3. 6	3. 3
自己評価についての評価結果および主な意見			
全体に 94.3% と高い数値が出ています。本校の特色の一つです。今年度は、日常の学校活動に縦割り班活動を位置付け、計画的に異年齢集団の活動を行いました。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
本校の特色を継続し、異年齢集団の活動が充実するよう努めます。取組み内容を保護者、地域に発信し、学校理解に努めていきます。			
9 学校は、道徳の授業や読書活動等を中心に心豊かな教育を推進している。	3. 3	3. 2	3. 1
自己評価についての評価結果および主な意見			
85.8% の達成率です。道徳授業地区公開講座では、内容項目を特化し、全教員が教材の開発にあたりました。読書活動においては、年 3 回の読書旬間で読み聞かせなどを実施し、内容を工夫しました。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
年間 35（34）時間の道徳の時間を大切にし、道徳の授業や教材の工夫をより一層していきます。読書活動は、学校図書館支援員と連携し、読書旬間の内容の工夫を推進します。			

平成 24 年度 練馬区立向山小学校 教育活動評価	保護者	教職員	児童
10 学校は、体力向上等、健康教育の充実に努めている。	3. 2	2. 9	3. 4
自己評価についての評価結果および主な意見			
児童の体力・運動能力調査の結果では、全国、東京都の平均より低い項目がありました。児童の実態を明確にし、年間指導計画の改善を図る必要があります。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
体育の年間指導計画を工夫し、児童の実態に応じた指導法の工夫をしていきます。来年度、体育朝会を月に1回設定し、マラソンやなわとびなどの運動を計画的に実施します。			
11 算数の少人数指導（2年生以上）やT Tによる指導（1年生）は効果的に行われている。	3. 4	3. 8	3. 4
自己評価についての評価結果および主な意見			
83.3%の達成率であり、算数科では個に応じた指導が定着しつつあります。各単元の「ふりかえり」や学校公開のアンケートからもよい感想をいただいています。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
学力の定着度に大きな差が出やすい教科なので、習熟度別少人数のよさを生かし、指導法を工夫し分かる算数、指導の充実に努めてまいります。			
12 学校は、子供や保護者の相談に適切に対応している。	3. 3	3. 5	2. 9
自己評価についての評価結果および主な意見			
全体の80.9パーセントの保護者が相談に適切に対応していると答えています。しかし、9.2パーセント保護者が「あまりそう思わない」と回答しています。個に応じた対応に努めていきます。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
教育相談体制の充実に推進していきます。練馬区の学校巡回相談員やふれあい相談員を中心に連携を強化し、課題や問題解決を図っていきます。			
13 運動会、全校遠足、展覧会等の学校行事は充実している。	3. 3	3. 4	3. 5
自己評価についての評価結果および主な意見			
学校行事が終わるごとに保護者アンケート（記述式）と自己評価を行い、次年度に生かしています。全体の充実度は、86.3%です。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
児童の実態や児童の負担にならないように考慮し、年間計画を計画しています。基本的には、月に1回は、保護者・地域の方が来校し、児童の様子や学校の活動を参観するようにしています。			
14 学校は、開かれた学校づくり（学校公開・お便り・ホームページ等）を推進している。	3. 3	2. 9	
自己評価についての評価結果および主な意見			
学校公開は年間6回行い、土曜授業日も参観できるようにしています。83.3%が推進している回答でした。学校だよりや学年だより、HPの更新は毎月行っています。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
学校公開の実施回数は、来年度も引き続き維持します。学校公開の曜日は、同じ曜日に偏らないよう工夫し実施します。HPの更新もできる回数を徐々に増やしていくよう努めます。			

平成 24 年度 練馬区立向山小学校 教育活動評価	保護者	教職員	児童
15 学校は、学習環境を整え、子供の安全確保に努めている。	3. 3	3. 3	
自己評価についての評価結果および主な意見			
学校安全安心ボランティアの登録者が 60 名を超え、児童の安全を見守っていただいております。生活指導部が中心となり、安全点検や安全指導を推進していきます。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
学習環境に関することは、全校で意志統一をします。学校安全安心ボランティアの登録者を 100 名目指します。土曜授業日に子供の健全育成にかかわる授業を実施します。			
16 子供は、「早寝・早起き・朝ご飯」等、基本的な生活習慣が定着している。	3. 3	2. 9	
自己評価についての評価結果および主な意見			
85.6%の保護者が、基本的な生活習慣が定着していると回答しています。高学年では、18.4%が不十分な児童の割合を占めています。家庭との連携が大切です。			
自己評価を踏まえた次年度の改善策			
保護者会や保健だより等で啓発を図っていきます。食育の年間指導計画を基に発達に応じた指導を意図的・計画的に進めていきます。			

2 学校関係者評価

(1) 総括

①成果

- ・概ね自己評価（保護者・地域・児童）のとおりです。
- ・教職員はよく取り組んでいると思います。
- ・児童は学習に落ち着いて取り組んでいます。

②課題

- ・規範意識の確立やあいさつは学校だけに任せてはいけません。家庭でも取り組むべきことが多いと思います。
- ・教職員が共通理解で同じように子供の声かけや指導を行っていきます。
- ・問題が起きてから指導にあたるのではなく、防止するような指導が必要です。

③改善策

- ・規範意識をもち、あいさつができるようにするためには、まず大人が模範を示すべきです。
- ・あいさつは年間を通して全校で取り組んでいきます。児童が順番に校門でのあいさつ運動を計画しています。
- ・先生によって指導が違うのではなく、共通理解、意思統一をもって指導にあたっていきます。
- ・学校から家庭や地域への啓発を一層図り、共通認識、共通理解のもと指導にあっていきます。